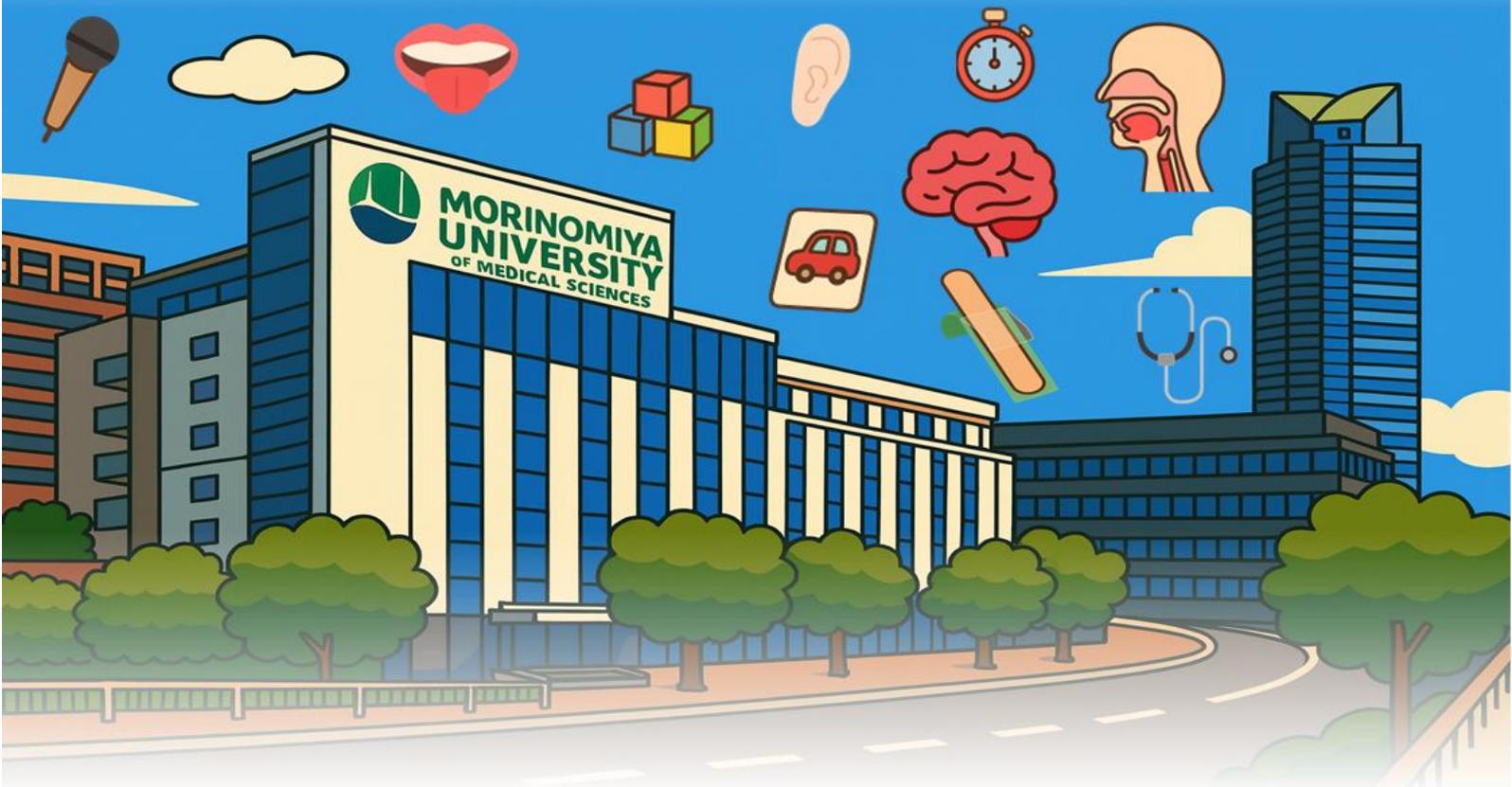


# 第6回大阪府言語聴覚学術大会 抄録集



## 「学術大会は最も身近な学びの場」

**日時** 2026年3月7日(土) 12:00~

**会場** 森ノ宮医療大学 葵棟 4階  
(大阪市住之江区南港北1-26-16)

**交通** 大阪Metro中央線  
「コスモスクエア」駅から徒歩5分

**内容** 大会長講演

森ノ宮医療大学  
大根茂夫 先生



運動の神経学的モデルからみた  
運動性発話障害の発現機序

基調講演

川崎医療福祉大学  
福永真哉 先生



脳卒中後のディサースリアの  
鼻咽腔閉鎖機能不全に対する評価・訓練

## 「学術大会は最も身近な学びの場」

第6回大阪府言語聴覚学術大会

大会長 大根 茂夫

大阪府言語聴覚士会が主催する大阪府言語聴覚学術大会は、今回で第6回を迎えます。今や1年を通してたくさんの学会や研修会が開催されています。大阪府言語聴覚学術大会を開催する意義を考えたとき、「敷居が低く、誰もが自分の経歴や経験に基づいて、臨床での思いや考え、疑問を気軽に発信できる集いにしたい」、そのような思いから「学術大会は最も身近な学びの場」を本大会のスローガンとして準備を進めてまいりました。

基調講演では川崎医療福祉大学の福永先生から鼻咽腔閉鎖不全に対する評価・訓練についてのご講演をいただきます。言語聴覚士は多くの鼻咽腔閉鎖不全の患者様に関わりますが、機能回復の難しい症例が多いと感じています。最新の情報を提供していただければと思います。また、今回は、口演・ポスターあわせて14演題の研究を発表していただきます。どれも興味深い事例です。経験豊富な先生も発表してくださいませ。私たちはそこから、研究報告のまとめ方や事例の考え方、訓練立案の考え方なども含め、臨床に役立つたくさんのヒントを得ることができるでしょう。

医学の進歩は日進月歩です。言語聴覚領域においても新しい考え方や治療方法が日々発信されています。皆様にとって、この学術大会がそのような新しい考え方や治療方法を知るきっかけになり、明日からの臨床に活かせるヒントが得られるのであれば、これにまさる喜びはありません。学術大会準備委員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 祝 辞

大阪府知事 吉村 洋文

「第6回大阪府言語聴覚学術大会」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。一般社団法人大阪府言語聴覚士会におかれましては、ことばやきこえなどのコミュニケーションに障がいのある方々の、生活の質向上や社会参加の促進に多大な貢献をしてくれました。これもひとえに、藤井会長はじめ、会員の皆様の熱意とたゆまぬ努力の賜物であり、その思いに、深く敬意を表します。また、本府の意思疎通支援等の拠点施設である府立福祉情報コミュニケーションセンターにおいては、失語症者向け意思疎通支援者の養成や派遣にお力添えいただき、心より感謝申し上げます。さて、去年は、皆様のご支援・ご協力を得て、大阪・関西万博を成功裏に開催することができました。国内外の2,900万人を超える来場者が「いのち輝く未来社会」を体感し、会場では連日、多くの皆様の笑顔と感動があふれました。万博の閉幕を新しい始まりとして、障がいの有無に関わらず、府民一人ひとりが心身ともに豊かさを感じられる社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。さらに、本府では、「全ての人間（ひと）が支え合い、包容され、ともに生きる自立支援社会づくり」という理念のもと、府民・事業者の皆様や市町村と協力・連携しながら、障がいのある方が自分らしく、安全・安心に暮らすことのできる社会の実現に取り組んでおり、より一層の障がい者支援施策の充実を図るため、来年度、第6次大阪府障がい者計画の策定を予定しております。今後とも、府政の推進に一層のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。結びに、貴会のみまますのご発展と、関係者の皆様並びにご参加の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

公益社団法人 大阪府理学療法士会  
会長 熊崎 大輔

第6回大阪府言語聴覚学術大会の開催を心よりお祝い申し上げます。大会長をはじめ運営に尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。貴会の大阪府民の保健・医療・福祉の発展への貢献は多大なるものがあり、本会も日頃より目標とさせていただいております。

近年、リハビリテーション専門職種は社会的な情勢から、医療や介護など多岐にわたる分野で大きな期待が寄せられております。多職種が共通の概念のもとに連携し、様々なニーズに応じていくことが求められており、その中でも『コミュニケーション』や『食べる』を支える言語聴覚士の専門性はチーム医療の要として、これまで以上に重要視されていると考えます。我々理学療法士会も貴会と共に、府民の保健・医療・福祉の発展に寄与してまいりたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本大会のご成功、そして会員の皆様のご健勝を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞

一般社団法人 大阪府作業療法士会  
会長 藤原太郎

第6回大阪府言語聴覚学術大会「学術大会は最も身近な学びの場」のご開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。本大会の開催にご尽力されました大根茂夫大会会長はじめ関係各位の皆様、心から敬意を表します。

言語聴覚士の皆様は、ことば・きこえ・摂食嚥下といった人の尊厳と生活の質に直結する重要な領域を担い、専門的知見に基づく実践を通して府民の健康と福祉の向上に大きく寄与しておられます。近年は医療のみならず、介護、教育、地域生活支援など多様な場においてその専門性を発揮されており、果たされている役割はますます重要性を増しております。

私ども大阪府作業療法士会におきましても、「その人らしい生活」の実現を支える専門職として、生活行為の再建と社会参加の促進に取り組んでいます。対象者の豊かな生活を支える上で、コミュニケーションや食支援の充実が不可欠であり、言語聴覚士の皆様との連携と相互理解が何より重要であると認識しております。専門職同士がそれぞれの強みを持ち寄り、尊重し合いながら協働することが、地域共生社会の構築につながるものと確信いたします。

本学術大会が新しい視点や解決の糸口の共有と活発な討議を通じて、さらなる学術の発展と実践力の向上に寄与する実り多き機会となりますことを祈念申し上げます。結びに、本大会のご盛会と貴会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げ、大阪府作業療法士会を代表してのご挨拶といたします。

# アクセスマップ

会場：森ノ宮医療大学 葵棟（あおいポート）

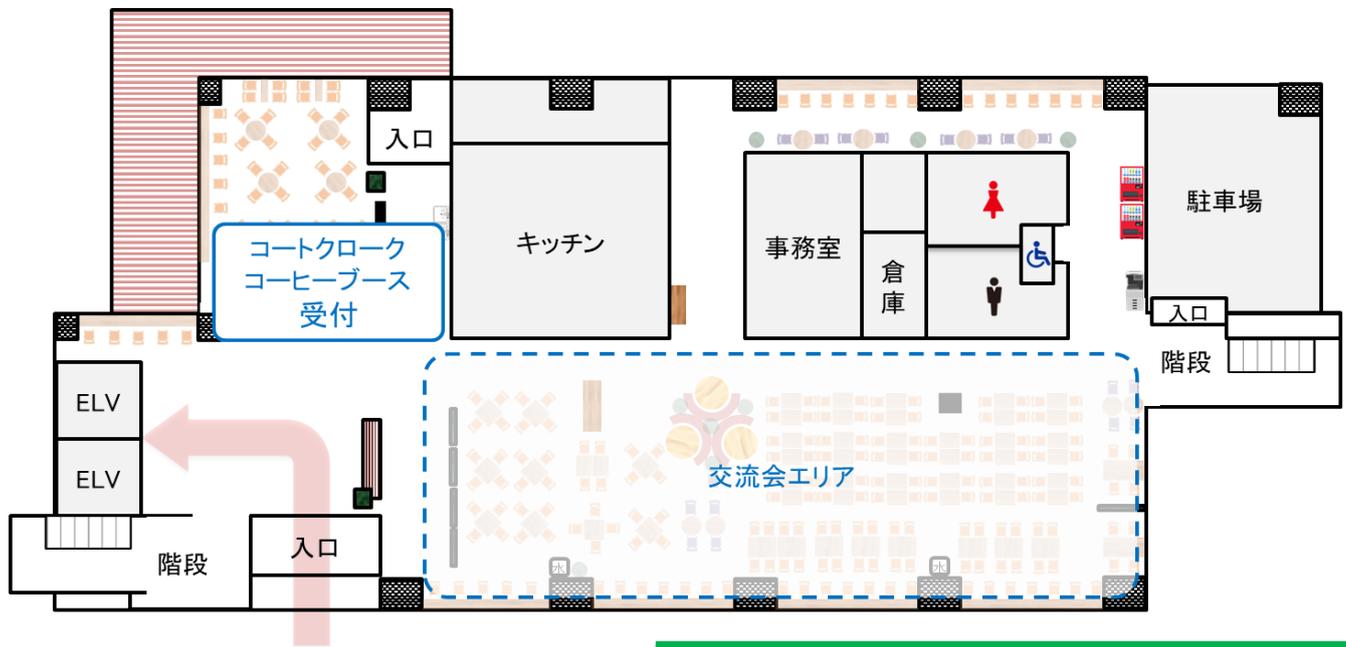
住所：大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26-16

Osaka Metro 中央線 コスモスクエア駅 [3番出口]から徒歩4分  
ニュートラム トレードセンター前駅 [1番出口]から徒歩4分



\* 近隣にコインパーキング有りますが、台数に限りがあります。公共交通機関の利用をお願いします。

# 会場案内図



Aoi Port (葵棟) 1F



- ※1 学生の皆様は第2中継会場をご利用ください
- ※2 2階、3階のトイレもご利用いただけます  
5階のトイレはご利用いただけません  
車椅子用トイレは1階、2階にございます

Aoi Port (葵棟) 4F

# 日程表

2026年3月7日(土)

参加者受付		演者受付			
葵棟 1階		葵棟 4階エレベーター横			
11:30	11:30-12:00	<b>受付</b>		11:30-12:00 <b>演者受付</b>	
	<b>メイン会場</b>	<b>中継会場</b>	<b>講演会場 1</b>	<b>講演会場 2</b>	<b>ポスター会場</b>
	葵棟 4階 <b>491</b>	葵棟 4階 492/496	葵棟 4階 <b>493</b>	葵棟 4階 <b>494</b>	葵棟 4階 <b>497</b>
					葵ダイニング <b>1階</b>
11:30				11:30-12:00 <b>ポスター 貼付</b>	
12:00	12:00-12:10 <b>開会式・開式の辞</b> 大会長：大根 茂夫			12:00-13:10	
12:10	12:10-13:10 <b>大会長講演</b> 「運動の神経学的モデル からみた運動性発話障害 の発現機序」 演者：大根 茂夫 座長：藤井 達也			<b>ポスター 展示</b>	
	※講演会場 2 (492) は 中継会場となります。				
13:20			13:20-14:10 <b>口述演題 I</b> <b>O-01~O-05</b> 座長： 黒田 健司 芝 さやか	13:20-14:10 <b>口述演題 II</b> <b>O-06~O-10</b> 座長： 舘 幸枝 前田 留美子	13:20-14:00 <b>ポスター演題</b> <b>P-01 ~ P-04</b> 座長： 不破 真也 未次 由佳
14:25	14:25-15:25 <b>基調講演</b> 「脳卒中後のディサース リアの鼻咽腔閉鎖機能不 全に対する評価・訓練」 演者：福永 真哉 座長：大根 茂夫				14:25-15:25 <b>ポスター 展示</b>
	※講演会場 2 (492) は 中継会場となります。				
15:25	15:25-15:35 <b>表彰式・閉会式</b> 司会：中谷 謙				
15:35					15:35-16:00 <b>交流会</b> (自由参加)

# ご参加の皆様へ

## 1. 参加費

会 員：1,000 円

非会員：3,000 円

学生・大学院生：無料（社会人大学院生は除く）（要学生証提示）

## 2. 座席

- ・会場内の座席指定は設けておりません。

## 3. 飲食

- ・大学周辺に飲食可能な店舗やコンビニエンスストアがあります。
- ・大学内での飲食も可能です。

## 4. 携帯電話・スマートフォン

- ・会場内では、電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。
- ・会場内での通話はお控えください。
- ・各講演および演題の動画撮影はご遠慮ください。

## 5. 駐車場・駐輪場

- ・近隣にコインパーキングがありますが、台数に限りがあります。
- ・可能な限り、公共交通機関のご利用をお願いします。
- ・本学の駐車場、駐輪場は使用できません。

## 6. その他

- ・会場内での呼び出しは、原則として行いません。
- ・当日の体調が優れない方は、参加をご遠慮ください。
- ・質疑応答時間は各演題につき3分間設定しております。座長の指示に従い、活発にご質問ください。ご質問の際は、必ずご自身の所属と名前を告げ、簡潔明瞭に行ってください。

# 座長・演者の皆様へ

## 座長へのお願い

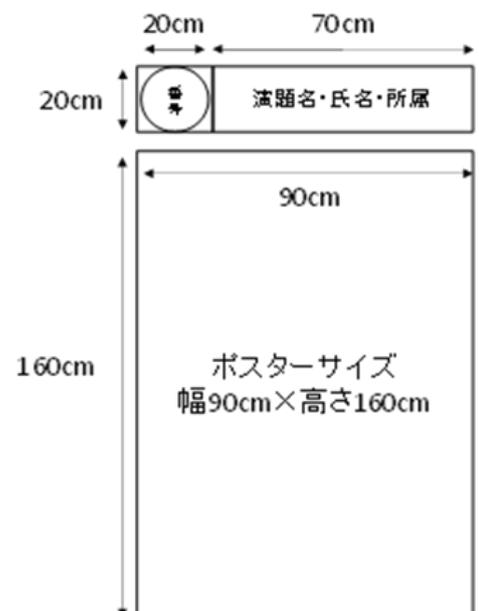
1. 座長受付について
  - ・ 4階の座長受付にお越しくください。
  - ・ 担当セッション開始 5分前までに「座長席」にご着席ください。
2. セッションの進行について（口述・ポスター）
  - ・ セッションの進行は、すべて座長にお任せいたします。
  - ・ 演題の発表時間は10分（発表7分・質疑応答3分）です。
3. 不測の事態等により、座長職務が遂行不可能な場合、速やかに集会本部へご連絡下さい。

## 演者へのお願い

1. 発表形式について
  - ・ 発表形式は、PCプレゼンテーションによる口述発表または、ポスター発表です。
  - ・ 会場設置の発表用PCのOSはWindows11、プレゼンテーション用ソフトはPowerPointです。マッキントッシュは使用できません。発表資料作成時にはご注意ください。
  - ・ 発表資料(データ)は当日お持ちいただき、発表会場のパソコンで表示確認を行っていただきます。アニメーションや動画を使用する際は、上記の環境下で動作することを事前に確認のうえ、当日、発表者用受付にて動作確認してください。当日、学会事務局での対応はできかねます。
  - ・ 口演、ポスター発表とも、発表7分、質疑応答3分、合計10分の予定です。
  - ・ ポスターは右図を参照し、演題名・氏名・所属、本文を作成してください。番号は学会で準備します。発表方法は後日お知らせします。文字サイズ、フォントの種類、図表、写真等の枚数は特に定めませんが、必ず指定したサイズ内に収まるように作成してください。

## 2. スライド・ポスターの受付について

- ・ 4階の各会場にお越しくください。
- ・ 発表用スライド（プレゼンテーションファイル）は、当日の11:30～12:00に各会場のPC受付までお持ちください。
- ・ データはUSBメモリに記録して持参いただき、会場設置のPCにご自身でコピーして動作確認などを行っていただきますようお願いいたします。
- ・ ファイル名は「演題番号氏名」としてください（例:1-1 保医花子.pptx）。



- ・ご自身の PC の使用を希望される場合は、必ず前もって下記までご連絡下さい。  
(学術大会準備委員 E-mail : [tomoki\\_nanto@morinomiya-u.ac.jp](mailto:tomoki_nanto@morinomiya-u.ac.jp))
  - ・ポスターは受付で番号をお渡しし、場所をご案内します。  
ご自身で時間内 (11:30~12:00) に貼り付けてください。
3. 発表について
    - ・発表開始 5 分前までに「次演者席」にご着席ください。
  4. 演題の発表時間について
    - ・10 分 (発表 7 分・質疑応答 3 分) です。時間厳守をお願いします。
    - ・発表時には時計およびタイマーはございませんので、各自ご用意をお願いします。
    - ・発表時間の終了 1 分前に「ベル」が一度、終了時には「ベル」が二度鳴ります。
  5. スライド操作について
    - ・発表時のスライド送り (PC 操作) は、ご自身でお願いいたします。
  6. ご提出いただいた発表データ(PC に取り込んだデータ)について
    - ・主催者側で責任を持って学術集会終了後に消去いたします。
  7. 演者や所属等に変更のある場合は、必ず集会参加受付時にお申し出ください。

# プログラム

12:10-13:10

大会長講演

座長：藤井 達也（大阪府言語聴覚士会）

会場：491 中継会場：492

運動の神経学的モデルからみた運動性発話障害の発現機序

大根 茂夫（森ノ宮医療大学）

14:25-15:25

基調講演

座長：大根 茂夫（森ノ宮医療大学）

会場：491 中継会場：492

脳卒中後のディサースリアの鼻咽腔閉鎖機能不全に対する評価・訓練

福永 真哉（川崎医療福祉大学）

13:20-14:10

口述演題 I

座長：黒田 健司（大阪医科大学）、芝 さやか（森ノ宮医療大学）

会場：493

0-01 療育を考える保護者と療育者の発達に対する認識の差異

－初期アセスメントにおける評価の一致性と相反傾向の検討－

鮎澤 俊平（森ノ宮医療大学）

0-02 熟語理解訓練が会話場面での言語表出に与えた影響

～放課後等デイサービスにおける段階的な訓練～

工藤 加奈（児童発達支援・放課後等デイサービス child hands 大阪）

0-03 脳動静脈奇形による脳出血後に重度記憶障害を呈した一例

－代償手段獲得に向けた段階的介入－

戸田 淳氏（森ノ宮医療大学）

**0-04 記号抹消アプリケーションの開発と臨床実践を通じた改良プロセス**

奥村 正平 (社会医療法人寿会 富永病院)

**0-05 言語優位半球脳梗塞後に生じた多様な発話症状の一症例**

—聴覚的印象と音響分析による鑑別—

渡辺 早貴 (関西電力株式会社 関西電力病院)

13:20-14:10

口述演題Ⅱ

座長：前田 留美子 (森ノ宮医療大学)、館 幸枝 (森ノ宮医療大学)

会場：494

**0-06 舌挙上運動における舌骨上筋群筋活動および疲労性の検討**

—表面筋電図を用いた頭部挙上運動との比較—

南都 智紀 (森ノ宮医療大学)

**0-07 業務負担軽減に向けた Praat を用いた音響分析の自動化の検証**

佐本 真由 (社会医療法人寿会 富永病院)

**0-08 疲労性評価・フィジカルアセスメントが経口摂取判断に寄与した一例**

野村 奈央 (医療法人宝持会 池田病院)

**0-09 側音化構音障害に対する /te/ を起点とし /ti/ を経由した /tci/ の訓練法**

—小児 1 例の報告—

村上 貴則 (児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援ビーリンク)

**0-10 自己摂取が可能となった脳室内出血により無為状態による嚥下障害を呈した一例**

小林 勇輝 (社会医療法人大道会 森之宮病院)

**P-01 福田学園校友会会員を対象とした音響分析に関するアンケート調査報告**

藤平 健太郎（社会医療法人若弘会 わかくさりハビリテーション病院）

**P-02 重症心身障害児に対する遊び・余暇支援の意義**

—スイッチの選択と活用で遊びや楽しみが増えた 2 症例—

川畑 武義（大阪保健医療大学）

**P-03 当院の成人吃音外来における訓練選択のプロセスについて**

-Shared decision making(SDM)の視点から-

岸村 佳典（社会医療法人生長会 ベルピアノ病院）

**P-04 超重症児が「味わう」を探求する支援～ヘッドコントロールシステム導入の試み～**

前坂 由美（堺市立重症心身障害者児支援センター ベルデさかい）

## 運動の神経学的モデルからみた運動性発話障害の発現機序

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科  
教授 大根 茂夫

ことばを発する時に口の動きを意識してみると、発声発語がまさに運動であるということが実感できる。

合目的な行動・動作を起こすための情報の流れを考えると、周囲の状況（感覚機能）や目的（辺縁葉）から、どのように動くかを考えて（運動の企画 前頭前野）、その動きを実現するために必要な要素的な動作を選択・配列し、力の大きさ、タイミング、運動方向などを計算（運動のプランニング 大脳基底核 小脳）し、視床・高次運動野を介して一次運動野から筋肉に運動指令を送ることで意図した動きを実現することができる。

目の前にいる相手に自分のメッセージを伝えるときも同様で、伝えたい気持ち（辺縁葉）がありながらも、周囲の状況（感覚機能）に配慮すべく、ことばを選んで、声の大きさや、タイミング、速さを考えて（発話の企画 前頭前野）、程よくプロソディを調整（大脳基底核 小脳）し、視床・高次運動野を介して一次運動野から発声発語器官に指令を送り、意図したことばを実現する。

このように考えると、身体運動もことばを喋ることも基本的な原理は同じではないかと思えてくる。今回は、神経学的な運動モデルの視点から、運動性発話障害の発現機序を再考してみたい。また、筋緊張の仕組みについて触れたいと思う。筋緊張は痙性麻痺性構音障害を理解するうえでさけては通れない。メカニズムがすべて解明されているわけではないが、私が理解している範囲で言及してみたい。

### 【略歴】

中京大学体育学部卒業後、大阪教育大学教育学部特殊教育特別専攻科を修了。医療法人愛仁会 理学診療科病院（現・社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院）にて臨床に従事した後、大阪医療福祉専門学校 教務部 言語聴覚士学科にて教育・運営に携わる。その後、白鳳女子短期大学、大阪保健医療大学言語聴覚専攻科において教育・研究を担当し、2024年より森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科に着任。あわせて大阪保健医療大学言語聴覚専攻科 非常勤講師を務め、現在に至る。

## 脳卒中後のディサースリアの鼻咽腔閉鎖機能不全に対する評価・訓練

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科  
 大学院 医療技術学研究科 感覚矯正学専攻  
 教授 福永 真哉

ディサースリアは、発声発語機構の筋活動制御に問題が生じ、音声言語コミュニケーションが障害される病態である。特に、脳卒中（脳血管障害）によって、皮質から脳神経運動核に至る錐体路が両側性に損傷されて生じる痙性ディサースリアでは、軟口蓋の挙上に主要な働きを行う迷走神経由来の神経支配が両側性に障害され、しばしば重篤な鼻咽腔閉鎖不全（velopharyngeal incompetency:以下VPI）が生じやすい。このVPIは、開鼻声、構音の歪み、置換えなどの発話症状を引き起こし、発話明瞭度や発話自然度を低下させ、VPIは開鼻声のみならず、2次的に呼吸機能や発声機能にも影響することが指摘されている。また、口腔構音機能も、鼻咽腔閉鎖機能と呼吸機能に大きく影響を受けており、舌や口唇は鼻咽腔を閉鎖して生じた口腔内圧を利用して構音活動を行っているため、ディサースリア症例における構音機能に対する影響は大きい。従来から本邦において、ディサースリア例に対するVPIの改善訓練として、通常、健常者では口腔内圧を高めることで口蓋帆挙筋が活動することから、まき笛や水を入れたコップを吹く等のブローイングを中心とした訓練が行われてきた。しかし、近年、VPIが重度の場合、ブローイング時の口腔内圧は口蓋帆挙筋活動と相関せず、ブローイングによって鼻咽腔閉鎖機能は賦活されず、口腔内圧と口蓋帆挙筋活動の関係性が破綻し、むしろ効果はないことが指摘され、その妥当性が疑問視されている。また、VPIに対する訓練として、ほかにも鼻息鏡などを用いたバイオフィードバックを用いた訓練、プッシングを用いた軟口蓋挙上訓練、姿勢の調整、鼻咽腔陽圧負荷療法（CPAP療法）、補装的アプローチである軟口蓋挙上装置（Palatal lift prosthesis：以下PLP）装用などがあるが、訓練効果についての報告は少ない。

本講演では、VPIをもつ痙性ディサースリア症例に対する鼻咽腔閉鎖感覚の運動訓練を中心としたアプローチ、PLPを用いた鼻咽腔機能不全の訓練事例を供覧し、併せて我々の研究から姿勢の調整の有効性などのほかの鼻咽腔閉鎖機能改善訓練についてもご紹介させていただく予定である。

### 【略歴】

筑波大学第2学群人間学類心理学主専攻卒、三菱自動車工業（株）勤務を経て、日本聴能言語福祉学院聴能言語学科卒、獨協医科大学神経内科学講座（平田幸一教授指導）にて医学博士取得。長尾病院、福岡徳洲会病院、国立病院九州医療センターで臨床を行う。研究・教育歴として、国際医療福祉大学・助手、姫路獨協大学医療保健学部・准教授、教授を経て現職。

第6回大阪府言語聴覚士会学術大会  
準備委員

**大阪府言語聴覚士会会長**

藤井 達也（大阪府言語聴覚士会）

**大会長**

大根 茂夫（森ノ宮医療大学）

**準備委員長**

中谷 謙（森ノ宮医療大学）

**準備委員**

田中 奈三江（大阪府言語聴覚士会）

戸田 淳氏（森ノ宮医療大学）

南都 智紀（森ノ宮医療大学）

**準備・設営スタッフ**

森ノ宮医療大学 学科教員・学生スタッフ

大阪府言語聴覚士会 第6回学術大会 抄録集

発行 2026年3月1日

発行者 会長 大根 茂夫

編集 第6回学術大会 準備委員

